

# 任意の群の $p$ -Sylow 部分群の存在と選択公理

alg-d

<http://alg-d.com/math/ac/>

2013年1月13日

定義.  $G$  を群,  $p$  を素数とする.

1. 部分群  $H \subset G$  が  $p$ -部分群  $\iff$  任意の元  $x \in H$  の位数が  $p$  冪である
2. 部分群  $H \subset G$  が  $p$ -Sylow 部分群  $\iff H$  は極大な  $p$ -部分群である

定理.  $p$  を素数とする. このとき

選択公理  $\iff$  任意の群  $G$  の  $p$ -Sylow 部分群が存在する.

証明. ( $\implies$ ) Zorn の補題より明らか.

( $\impliedby$ )  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を非空集合の族とする.  $G_\lambda := \{x_1 x_2 \cdots x_n \mid n \in \mathbb{N}, x_i \in X_\lambda, \text{同じ元は } p \text{ 個連続して現れない}\}$  とすると  $G_\lambda$  は結合  $(x_1 \cdots x_n, y_1 \cdots y_m) \mapsto x_1 \cdots x_n y_1 \cdots y_m$  により群になる. (ただし, 結合により同じ元が  $p$  個連続した場合はその部分を単位元  $1$  とみなす.)

$G := \bigoplus_{\lambda \in \Lambda} G_\lambda$  として  $\pi_\lambda: G \rightarrow G_\lambda$  を  $\lambda$  成分への射影とする. 仮定により  $G$  の  $p$ -Sylow 部分群  $H \subset G$  が存在する. このとき  $\pi_\lambda(H)$  は  $G_\lambda$  の  $p$ -Sylow 部分群である.

$\therefore$  明らかに  $\pi_\lambda(H)$  は  $p$ -部分群である.  $\pi_\lambda(H) \subsetneq H_\lambda \subset G_\lambda$  を  $p$ -部分群とする.  $g \in H_\lambda \setminus \pi_\lambda(H)$  が取れる.  $i_\lambda: G_\lambda \rightarrow G$  を標準入射として  $H$  と  $i_\lambda(g)$  で生成される部分群を  $\tilde{H} \subset G$  とすれば  $H \subsetneq \tilde{H} \subset G$  で  $\tilde{H}$  は  $p$ -部分群である. 故に  $H$  の極大性に矛盾する. 従って  $\pi_\lambda(H)$  は  $p$ -Sylow 部分群である.

$g = x_1 \cdots x_n \in \pi_\lambda(H)$  ( $x_i \in X_\lambda$ ) とすると,  $g$  の位数  $k$  は勿論有限であり  $1 = g^k = (x_1 \cdots x_n)(x_1 \cdots x_n) \cdots (x_1 \cdots x_n)$  である. よって積の定義から,  $x_1 = x_n$  でなければならない.

次に  $g = x_1 \cdots x_n \in \pi_\lambda(H)$ ,  $h = y_1 \cdots y_m \in \pi_\lambda(H)$  ( $x_i, y_i \in X_\lambda$ ) とすると,  $x_1 = y_1$

である .

$\therefore gh = z_1 \cdots z_l$  ( $z_i \in X_\lambda$ ) と書ける .

(i)  $m + n = l$  のとき . この場合 , 先に述べたことにより  $x_1 = z_1 = z_l = y_m = y_1$  である .

(ii)  $m + n < l$  のとき . この場合 , 積の定義から  $x_n = y_1$  であるから ,  $x_1 = y_1$  である .

即ち , 各  $\lambda \in \Lambda$  に対して  $\pi_\lambda(H)$  の元の先頭に来る  $X_\lambda$  の元は一意に定まる . そこでそれを  $x_\lambda$  とすれば  $(x_\lambda)_{\lambda \in \Lambda} \in \prod_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  が取れる .  $\square$

## 参考文献

- [1] Paul E. Howard and Mary Yorke, Maximal  $p$ -Subgroups and the Axiom of Choice, Notre Dame Journal of Formal Logic, 28 (1987), 276–283, <http://projecteuclid.org/euclid.ndjfl/1093636944>